

令和7年度

地域とともにある学校づくり

保谷第一小学校 1年生

コミュニティ・スクールの充実

# 西東京ふるさと探究学習

単元名： きせつとなかよし ふゆ  
(活動名)

ねらい： 冬の特徴や春や夏、秋との違いを見つけ、自然の様子や季節の変化、冬の自然のおもしろさや不思議さに気付き、地域の人やみんなと楽しく関わりながら、自分の生活を楽しくしよとすることができる。

1年生は、生活科の学習で5月、11月、2月と屋敷林に行き、季節の変化や自然の様子を観察したり、ボランティアの方々と触れ合ったりする活動を行ってきました。今回は、2月に実施した様子を紹介します。

秋に行ったビンゴをもとに、冬ならではの自然を探しました。  
「葉っぱがなくなっているよ」  
「虫はいないね。」  
「結構いろいろな色がある！」  
など、子どもたちは秋との違いを比べながら観察していました。  
「もしかしたらこのへんにも何かいそうだな。」などと、これまでの経験がつながり、“見付ける”から“考える”へと学びが深まっている様子を感じられました。



保存会の方による紙芝居では、

- ・冬でも生きている生き物
- ・木が葉を落とす理由
- ・一年を通した保存会の活動

について教えていただきました。子どもたちは真剣に耳を傾け、「春になったらどうなるの?」「また来たい!」「またお手伝いしたい!」と、季節のつながりや、自分たちも地域の一人としてかわっていききたいという意欲的な姿も見られました。

保存会の方々が日頃行っている、落ち葉を集めて腐葉土にする仕事と、どんぐりをそのままにしておくと、芽が出て歩きづらくなってしまふため、どんぐりを拾う仕事を教えていただき、子どもたちも実際に体験しました。落ち葉拾いでは、集めた落ち葉の下からはミミズが見つかり、「ミミズがいた!」と驚きの声が上がりました。保存会の方からは、「ミミズがいるのは、いい土の証拠なんだよ。」と教えていただきました。子どもたちは「いっぱいあって大変だけど楽しくなってきた!」「いつもやってくれているんだね。」と、地域の方の仕事に目を向ける声も聞かれました。

## まとめ コラム

3回の屋敷林訪問を通して、子どもたちの視点は大きく変化しました。秋は「きれい」「たくさんある」という発見が中心でしたが、冬は「どうして?」「どこへ行ったの?」と、比較や想像を伴う言葉が増えました。また、落ち葉拾いの体験を通して「屋敷林は大切に守られている場所なんだ。」という気付きも芽生えています。自然と人とのつながりを感じながら、一年生なりのふるさとへの愛着が育っていることを実感できた三学期となりました。